

2019. 7. 23 &lt;計1枚&gt;

京都大学記者クラブ加盟各社 各位

立命館大学広報課

## 京都コリア学コンソーシアム・韓国国際交流財団による特別講演会

## 「歴史問題からみた日韓・日朝関係」

日時：2019年8月3日（土）14:00～17:00

会場：立命館大学衣笠キャンパス 学而館4階 GJ403

京都コリア学コンソーシアム、韓国国際交流財団は、特別講演会「歴史問題からみた日韓・日朝関係」を開催いたします。京都コリア学コンソーシアムは、京都地域で朝鮮半島に関わる研究・教育に携わる若手研究者を育成するための組織をもつ、同志社大学コリア研究センター、京都大学朝鮮・韓国学教育研究ネットワーク、佛教大学韓国・朝鮮学研究者ネットワーク、立命館大学コリア研究センターで構成し、本企画は本学コリア研究センターが主管で実施いたします。

3.1 運動（日本統治下の朝鮮における独立運動）から100周年を迎える今年、朝鮮半島をめぐる情勢は大きく揺れ動いています。かつて朝鮮を植民地化し戦時総動員体制にも巻き込んだ日本は、この現代の情勢において、ただ第三者的な隣国という立場に引きこもっていることはできません。1965年に日本は南（大韓民国）と日韓条約を結びましたが、植民地支配下の被害をめぐっては、そこで何が「解決済」なのかをめぐって未解決の課題を抱えており、それが日本軍「慰安婦」問題やいわゆる「徴用工」問題として今日顕在化しています。

一方、日本は北（朝鮮民主主義人民共和国）とは国交正常化していません。2018年以降、南北および米朝が「非核化」「平和プロセス」を中心的なキーワードとして、対話が積み重ねられてきました。日朝関係においては、そうした安全保障上の問題に加え、日本人拉致問題については公論化されてきましたが、歴史問題については、日韓関係と同様の問題を抱えているにもかかわらず、あまり正面から論じられていません。

本講演会では、長年、日本と朝鮮半島の歴史問題に関わってこられた内海愛子氏、和田春樹氏をお招きし、この問題を包括的に議論いたします。

記

日時：2019年8月3日（土）14:00～17:00 ※13:30～受付開始

会場：立命館大学衣笠キャンパス 学而館4階 GJ403

プログラム：司会 庵途由香（立命館大学教授）・太田修（同志社大学教授）

【第1部】講演①「徴用工問題で揺れる日韓関係：植民地支配・戦争裁判・戦後補償から考える」  
内海愛子氏（恵泉女学園大学名誉教授、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター長）

講演②「米朝平和プロセスと日朝国交正常化」

和田春樹氏（東京大学名誉教授）

【第2部】総合討論 内海愛子氏、和田春樹氏

入場料：無料 ※事前申し込み不要

主催：京都コリア学コンソーシアム、韓国国際交流財団

主管：立命館大学コリア研究センター

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学コリア研究センター事務局 担当：森・伊藤

TEL.075-465-8244